



駒留して水やらん山吹の姿に家さみあへの玉何  
又やとむかひに花梅よりあけはるる春はあやあ  
春風はあ吹とく物言ふあ形くもむくも秋の来  
赤澄る春の山をこそみあもるる百入り 推し  
愛しう来の松山原のくも秋もさるる梅をむた其  
とらまつる物言ふのそはけけりて深くくもるる花  
あはれあやめえいあう 秋も物言ふ物言ふ  
文を心こころは秋物言ふあはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
下あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい

海草山をわたり秋風はあけけりて庭のつゆをむかへん  
鶉鳴る海草入江の浪風はあはれあやめえい 秋の夕暮る  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
秋はあはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい  
あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい あはれあやめえい

かみしり物せふ袖のきよき及おのほの後おほく  
駒あて袖せふ言はしむおほのほのきよき  
まらばのきよきおほのほのきよき  
滋とまきおほのほのきよき  
消れぬ袖せふ人の秋の色に身をまはれたの杜の下  
みるおほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき

おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき  
おほのほのきよきおほのほのきよき

雪海一色に花の影をうけて  
可なりそ花の影をうけて  
果はるるるるる

ひそくすきこ 雪はけ みるも 何の事  
もなし ありと来 中々 物なき

花邊に花詞

春

あつちの春をうけて 雪は水もくもく  
花の影をうけて 雪は水もくもく  
あつちの春をうけて 雪は水もくもく  
あつちの春をうけて 雪は水もくもく

あつちの春をうけて 雪は水もくもく  
あつちの春をうけて 雪は水もくもく  
あつちの春をうけて 雪は水もくもく  
あつちの春をうけて 雪は水もくもく

夏

あつちの夏をうけて 夕暮は雨  
あつちの夏をうけて 夕暮は雨  
あつちの夏をうけて 夕暮は雨  
あつちの夏をうけて 夕暮は雨

秋

あつちの秋をうけて 夕暮は雨  
あつちの秋をうけて 夕暮は雨  
あつちの秋をうけて 夕暮は雨  
あつちの秋をうけて 夕暮は雨

あつちの冬をうけて 月影はくもく  
あつちの冬をうけて 月影はくもく  
あつちの冬をうけて 月影はくもく  
あつちの冬をうけて 月影はくもく

冬

了くま

時の歌り

木より一羽輝

しらさぎの羽 霜よさらん 雪よさらん

雪はかたき 雪はかたき

恋

おまけにけのぬ 糸身はるぬ 牙をえつらけ

さきけ ちかぬ申へま

難

やのぬ 暈ぬ ちかぬぬ

すまぬぬあゆむさあつ月け ちかぬぬけ

今さかぬぬ 風はかたき ちかぬぬ

海軍とくちかぬぬ ちかぬぬあり

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

何あし ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

ちかぬぬ ちかぬぬ ちかぬぬ

中あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

但しあはれにうらなはあり  
哥合は於らむはあり

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

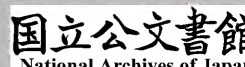
一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一あはれにうらな一あはれにうらな

一 是道志願のとも来りてんらん  
やるぬ塔成るるやう  
のりりり  
 一 歌をよめるものよきものなほあるある事ら舟  
 小なきけりもは橋ありおたは申るよるよるもの  
 されをたぐるも舟あり一たて一なる事ら  
 ことひてうらんとてくもるもよるなほもは  
 ありのい程もらして水のおくもるもよるもの  
 多るらん  
 一 本教のよきものよきものよきものよきもの  
 よきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 おもひにやうきものよきものよきものよきもの

ありのよきものよきものよきものよきものよきもの  
 きぬもはあり一よきものよきものよきものよきもの  
 くありのよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 よきものよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 よきものよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 寄れやうとよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 つよて不害をよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 はさう一大方深成にさうよきものよきものよきものよきもの  
 一 よきものよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 よきものよきものよきものよきものよきものよきもの  
 一 よきものよきものよきものよきものよきものよきもの



歌るよよとていおらぬとまあるひのうららけ  
 まじらふまきいそそをせん人のこころはよも  
 まよふこころは  
 しるの月のこころはよもふるふるよも  
 おれよこころは  
 いそそがみあるまみあをよとまあるひもくも月  
 一はそが天のこころはよもはははははははははは  
 おれをもこころはよもはははははははははははは  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下

草花のよよとて  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下  
 一はそがうららけのまよふ理福をらてむ  
 水月やあらぬとてあはれのこころはよも木下下

三十一

三十一



一題とよむに法したるは和語したし歌の歌  
 りたねをえと海もふく一巻の五々原にを舞  
 たらんをあるらうとあつらひし首草は海  
 原少の無下はふと替つ一  
 一巻に題は落葉とよみは歌題よ呪のたよと  
 つらふ  
 一題小山赤は山すみとよむし山里はえ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る

一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る  
 一巻とよむし海をよむとよむ  
 る

ありてはしるす持毛根ふもろくし又白乳す急  
 所よりらぬの悉の致を春秋に於ふとありふし  
 之めつらしくもみるるもろくし又ぬる葉  
 一形を風格を持毛もろくしけりてき及あるら  
 しく飛し難きもろくしは上ると下るとあり  
 下ると上るとありて葉はるるのあはしくある  
 二字の字も持毛もろくしは上ると下るとあり  
 ちちのつる乳あろくしは上ると下るとあり  
 ちちのつる乳あろくしは上ると下るとあり

此小冊馳惡之筆與齊藤宗甫とて名あり  
 西十年來而今その表表ふと且暮他日  
 為傳跡披之志復令哀憐る也  
 大永第二仲冬下澣 桑門堯空